Guitar magazine

CD付き

# 39歳からの本格ブルース・ギター

円熟の演奏力が身につく大人のギター教本

著者：
安東 滋
Shigeru Ando

Rittor Music Mook
http://www.rittor-music.co.jp/

# ブルース名盤を“観て”楽しむ

この冒頭カラー・ページでは、ブルース・ギター界のレジェンド陣が残したブルース名盤の中からいくつかを厳選して、その“ジャケットを観て楽しむ”というビジュアル面の要素も加えながら紹介していきます。

まず最初に紹介するのは３大キングの名盤。B.B. キングの作品群から選んだのは、キャリア初期の『Singin' the Blues』と『The Blues』の 2in1 盤（**1**）、そして 1960 年代の全盛期に残した名ライヴ盤の『Live at The Regal』（**2**）と『Live In Cook County Jail』（**3**）。時代の異なるこれらの作品を改めて聴き比べてみると、黄金の B.B. スタイルの変遷ぶりがよくわかりますね。ロック勢と接点を持った『Live & Well』（**4**）と『Completely Well』（**5**）の２枚も選んでみました。後者のアルバムからは、B.B. キングの大看板ともなった名曲「スリル・イズ・ゴーン」も生まれています。

アルバート・キングの名盤としてあげたのが『King of The Blues Guitar』（**6**）。ファンキーなバック陣を従えたスタックス期の傑作です。そして極めつけは名ラ

4

12

11

10

6

＊注：写真の LP は著者所有のアナログ・コレクションの中から選んだものです。

# ブルースを弾くならこのギター！

注：写真の４本のギターは著者所有の楽器の中から選んだものです。

## ①ハムバッキング・ピックアップ搭載ギター

ハムバッキング・ピックアップ搭載のギターの中から、ブルースの演奏に最適の２本、ギブソン製の ES-335 と SG を選んでみました。

### GIBSON ES-335TD

ブルースで用いられるギターの代表機種といえば、ズバリこれ！……と多くのブルース・ファンが思い当たるであろう王道ギターが、ギブソン製の ES-335TD（とその上位機種の ES-345、ES-355）に代表されるセミ・アコースティック・ギター。箱鳴りを伴った “woody” な甘いトーンと程良いサスティンを併せ持ち、ダブル・カッタウェイのボディ形状による演奏性の良さもトレードマーク。ジャンプ・ブルースやジャジィ系ブルースなどに最適のキャラクターを持つ、使い回しの良い楽器ですね。

セミアコを抱えるイメージに直結するブルースマンをあげると、B.B. キングを筆頭に、フレディ・キング、エディ・テイラー、ジョニー・ギター・ワトソンなど。そしてエピフォン製を愛用していたジョン・リー・フッカーやオーティス・ラッシュの姿も（筆者には）思い浮かびます。

この写真の個体は 1970 年代後半製の ES-335TD（オリジナル仕様のブランコ型テイルピースをストップ・テイルピースに改造したもの）。向かって右肩に見えるトグル・スイッチは純正仕様のフェイズ・スイッチです。

### GIBSON SG

ハムバッキング・ピックアップ搭載のギターとしてもう１本選んでみたのがギブソン製 SG。ボディ＆ネックの材質がマホガニーで構成されていることに起因する（と筆者には思われる）適度なウォーム感を伴った音色がセールス・ポイントです。薄いボディと最終 22 フレットの位置で結合された浅いネック・ジョイントによる、突出したプレイアビリティの高さも見逃せない持ち味のひとつでしょう。

ブルース・ギタリストの使用例はやや少ないですが、ブルース・ファンなら 1960 年代前半の（アルバムで言うと『I Was Walking Through The Woods』あたりの：34 ページ参照）バディ・ガイが愛用していた楽器として思い当たるのではないでしょうか。ブルース・ロック勢まで目線を広げると（スライド・プレイ時の）デュアン・オールマン、そして近年ではその DNA を受け継ぐデレク・トラックスが代表的な愛用者。

写真の個体は、ギブソン製 1960 年代型のリイシュー・モデル。粘り感のある出音がとてもブルージィに響く個体で、本書の付録 CD のレコーディングでもこの SG は大活躍してくれました。ブランコ型テイルピースを後付けしている理由は……何もありません（笑）。

# はじめに

本書『39歳からの本格ブルース・ギター』は、長年ギターに慣れ親しんできた大人のギタリストの皆さんに贈る、より本格的なブルース・プレイを身につけるための 実践的な指南書として企画されたものです。

では、“本格派ブルース・ギターを体得するためのツボとは何か？”……執筆にあたって、筆者がその攻略コンテンツの柱として設定したのが、“ブルースはまず曲ありき！”、という（当たり前の）ポイントでした。単に3コードの和音進行に沿ってフレーズを並べていくだけの練習ではなく、バッキング・ワーク＆ソロ・プレイともに楽曲に寄り添った実用的なアプローチやアイディアを覚えて積み上げていくことで、より本格的なブルース・プレイが会得でき、そして音楽的にもグンと昇華していくはず！……と考えたのです。

具体的には、代表的なブルース･スタイルを計10タイプ選び、それぞれのフォーマットを代表するスタンダード曲を課題曲としてイメージしながら、本格的なブルース・ギターの奥義をマスターしていきます。各章で設定した課題曲はどれもブルースの大スタンダードばかりなので、そのままジャム・セッションにも使える☆……という嬉しい即効性も併せて期待できるでしょう。そして章によっては、本格プレイ・ポイントをより深く掘り下げていく「さらなる本格派へ！」のコーナーも設けて、さらに音楽面でのウンチクなどもたっぷりと紹介していきますので、そちらも乞うご期待！（笑）。

なお、各章は1章完結スタイルで構成されているで、どの項目から読み始めてもOKです。ブルース好きの読者の皆さんの琴線に触れてビビッときたところから、どんどんマスターしていってください。

では早速、愛用ギターをスタンバイさせて、PLAY THE BLUES♪

2015年1月　安東滋

CONTENTS

P2 ブルース名盤を“観て”楽しむ
P6 ブルースを弾くならこのギター!
P8 著者プロフィール／付録CDに関して
P9 はじめに

01章 本格シカゴ・ブルース CDtrack01 ～ 10

■ BACKING （カラオケ CDtrack89）

P14 シカゴ・スタイルを体感！
P16 本格ポイント解説
P18 さらなる本格派へ!

■ SOLO PLAY

P20 シカゴ・ブルースの常套フレーズ
P22 本格ポイント解説

02章 本格アーバン・ブルース CDtrack11 ～ 15

■ BACKING （カラオケ CDtrack90）

P26 モダン・スタイルの典型フォーマット
P28 本格ポイント解説

■ SOLO PLAY

P30 スクィーズ・スタイルの常套句
P31 本格ポイント解説

03章 本格ジャンプ・ブルース CDtrack16 ～ 24

■ BACKING （カラオケ CDtrack91）

P36 ジャジィ＆スウィンギーなコード・ワーク
P38 本格ポイント解説

■ SOLO PLAY

P42 軽快にスウィングするモダンな節回し
P44 本格ポイント解説

# 39歳からの本格ブルース・ギター

円熟の演奏力が身につく大人のギター教本

## 04章 本格スロー・ブルース (style 1) CDtrack25 ～ 34

■ BACKING （カラオケ CDtrack92）

P48 モダン・スタイルの典型アプローチ
P50 本格ポイント解説
P52 さらなる本格派へ!

■ SOLO PLAY

P54 モダン・ブルースの典型アプローチ
P56 本格ポイント解説
P58 さらなる本格派へ!

## 05 章 本格スロー・ブルース (style 2) CDtrack35 ～ 49

■ BACKING （カラオケ CDtrack93）

P62 “ストマン進行” の特徴的なコード展開
P64 本格ポイント解説
P67 さらなる本格派へ!

■ SOLO PLAY

P68 カラフルに紡ぎ出すモダンなブルース・フィール
P70 本格ポイント解説
P73 さらなる本格派へ!

## 06章 本格マイナー・ブルース CDtrack50 ～ 62

■ BACKING （カラオケ CDtrack94）

P76 シンプルに響かせるマイナー・ブルース進行
P78 本格ポイント解説
P80 さらなる本格派へ!

■ SOLO PLAY

P82 クールに紡ぎ出すモダンなマイナー・メロディ
P84 本格ポイント解説

## 07章 本格8小節ブルース (style 1) CDtrack63 ～ 70

■ BACKING （カラオケ CDtrack95）

P90 指弾きスタイルの3コード・バッキング
P92 本格ポイント解説

■ SOLO PLAY

P94 キャッチーに展開するメジャー系ソロ・ワーク
P96 本格ポイント解説

## 08章 本格8小節ブルース (style 2) CDtrack71 ～ 75

■ BACKING （カラオケ CDtrack96）

P100 基本コードとダブル・ストップで綴る8小節進行
P102 本格ポイント解説
P104 さらなる本格派へ!

■ SOLO PLAY

P106 たっぷりと紡ぎ出すバラード・ソロ
P108 本格ポイント解説
P112 さらなる本格派へ!

## 09章 本格ファンキー＆ロッキン・ブルース CDtrack76 ～ 82

■ BACKING （カラオケ CDtrack97）

P116 躍動的なストレート・グルーヴ
P118 本格ポイント解説

■ SOLO PLAY

P122 ファンキー&リズミカルなソロ・ワーク
P124 本格ポイント解説

## 10章 本格2ビート・ブルース CDtrack83 ～ 88

■ BACKING （カラオケ CDtrack98）

P130 ぐんぐん突き進む2ビート・グルーヴ
P133 本格ポイント解説

■ SOLO PLAY

P137 ダイナミックに展開するソロ・ワーク
P139 本格ポイント解説

---

コラム 24、34、60、88、114、128、142
あとがき 143

01 章

# 本格シカゴ・ブルース

39

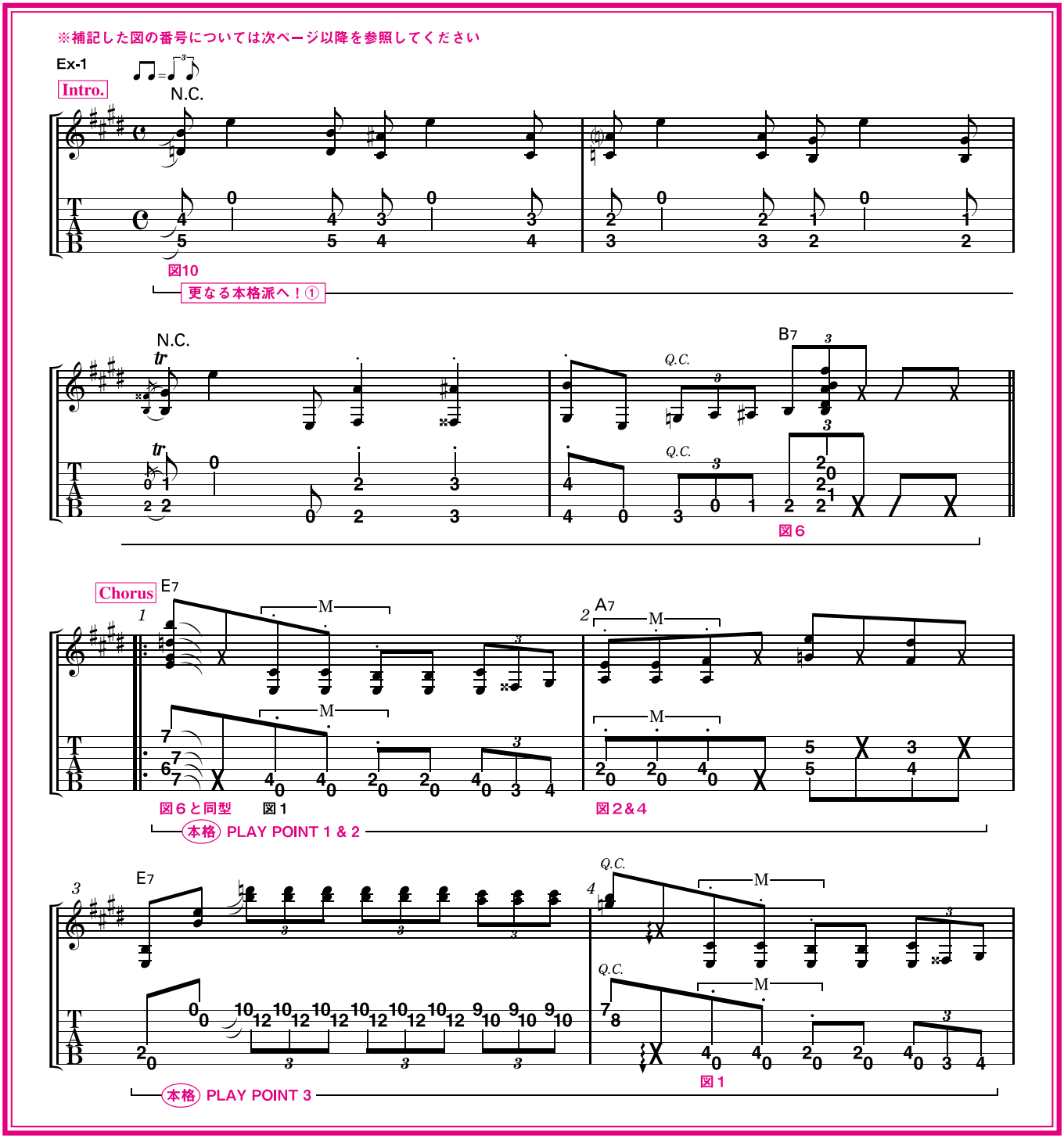
※ CDtrack89 に 14 ～ 15 ページの BACKING のカラオケが収録されています。2コーラス目は終盤の進行が異なりますが、イントロに続く1コーラス目は 20 ～21 ページの SOLO PLAY のカラオケとしても使用できます。

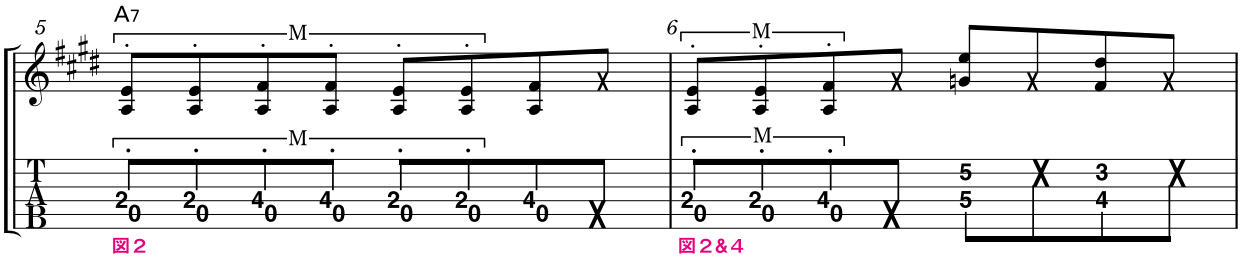
# 01 章：本格シカゴ・ブルース

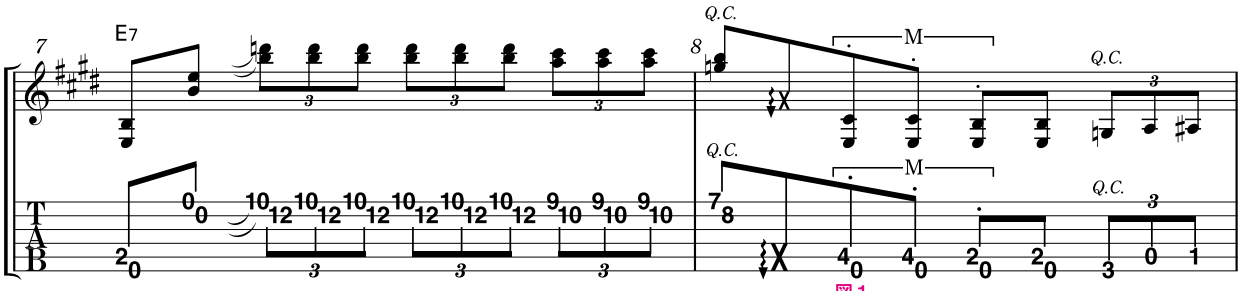
## ■ BACKING：シカゴ・スタイルを体感！

CD Track 01

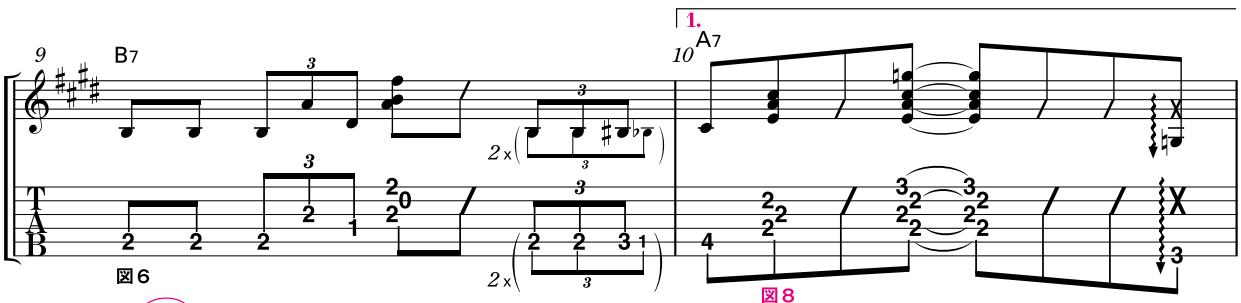
シカゴの“ご当地ソング”（？笑）「スウィート・ホーム・シカゴ」に代表される、Key=E での王道バッキング・スタイルをモデリングした譜例が Ex- 1。ウォーキング・ベースを軸に、歌に絡む複音のコール＆レスポンスや、B7 ＆ A7 部での定石コード・フォーム、ターン・アラウンドとイントロ＆エンディングの王道リックなどを連結して、シカゴ・ブルースの典型的なバッキング・スタイルを構成していきます。まずはこれをまるごと覚えて、本格ブルースの醍醐味を体感してください！



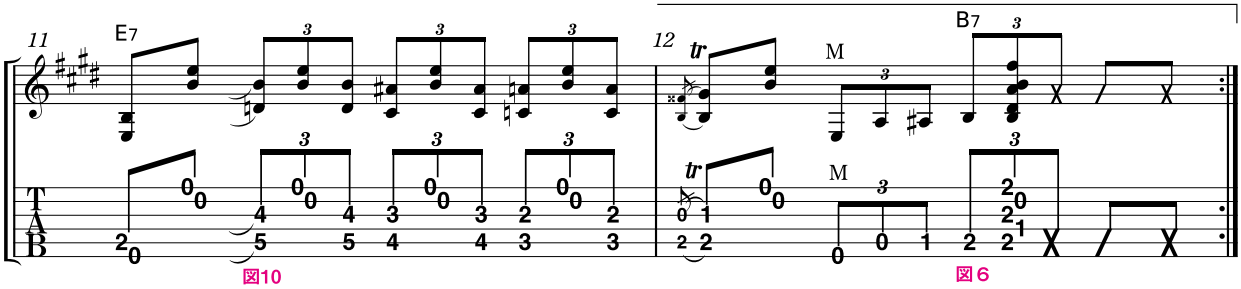


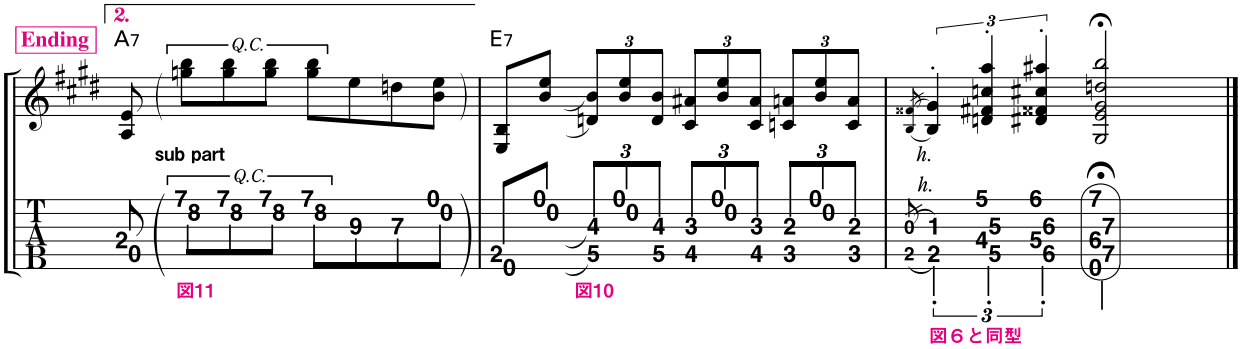

本格 PLAY POINT 3




本格 PLAY POINT 4




●ターン・アラウンド



## 本格　PLAY POINT 1：ピッキングでノリをコントロール

低音弦２本で弾くウォーキング・ベース（ボトム・リフ）はブルース・バッキングの大基本！　これをグルーヴさせるポイントのひとつはピッキングにあります。

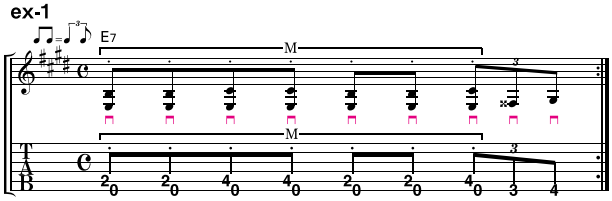
基本の“ダウン”だけで弾く（ex- 1：＊注）、あるいは“ダウン＆アップ”のオルタネイト動作で弾く（ex- 2）……この動作の違いで出音の印象は随分と異なってきます。前者はがっしりとした出音とタイトなノリ、後者は（ピッキングの方向が交互に振り分けられることに起因する）ブリッジ・ミュートの効き具合や音色に差が生まれて抑揚がつきやすい……といったイメージが一般的でしょう。

ただ、これはどちらのピッキング方法が良いというものではなく、それぞれを曲のグルーヴやムードに合わせて適材適所でチョイスする柔軟な目線が筆者のお薦めです。ちなみに前ページのバッキング例では ex- 3のような要領で両者のピッキングを組み合わせて演奏しています。それぞれの出音とノリの違いに耳を傾けてみてください。

グルーヴ作りに関連するもうひとつのポイントは、左手側の“スタッカート”の動作。上記のブリッジ･ミュートと併せて（押弦音を１音ずつ区切るような気持ちの）この動作を加えることで、シャープで押しの強いビート感を演出することができます。

CD Track 02　00:00~00:11

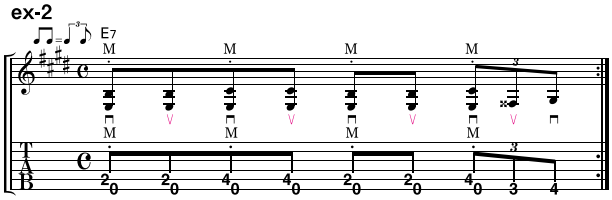
ex-1




⊓＝ダウン・ピッキング

CD Track 02　00:13~00:25

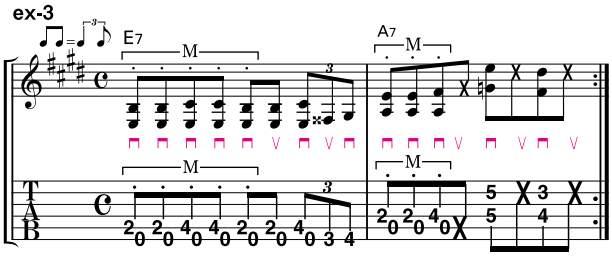
ex-2




∨＝アップ・ピッキング

CD Track 02　00:27~

ex-3




＊注：本格プレイ・ポイント項の各譜例は、Intro や Chorus など部位の指定のあるものはその位置に、小節数の指定があるものはコーラス中の該当小節に、それぞれ対応しています。その指定がない譜例は表記されたコード・ネームに合致するいずれの位置にも当てはめることができます。

## 本格　PLAY POINT 2：ウォーキング・ベースのバリエーション作り

ウォーキング・ベースのバリエーション作りには、音使いの面で変化をつける目線が欠かせません。その定石的な音使いや定番パターンについては読者の皆さんも良くご存知だと思いますので、図１＆２に E7 と A7 の両コードにシンクロした基本的な音の分布だけを示しておきます。その実践例として ex- 4にあげたのは、ウォーキング・ベースの達人＝エディ・テイラーの愛用パターンのひとつです。

もうひとつのお薦めアイテムが、複音を利用したバリエーション作りのアイディア。その定番パーツである６度音程のダブル・ストップを組み合わせた場合の基本的な音の配置を図３＆４に、E7 コードでの使用例を ex- 5にあげておきますので、それを参考にいろいろとアレンジして使ってみてください。同様の展開パターンでコーラス全体をカバーしても良いですし、先に紹介した ex- 3の様に部分的に複音を組み込むアイディアもお薦めです（後者はウォーキング・ベースにちょっとしたフックを加えたい時にぴったりの小ネタになると思います。笑）。

図１

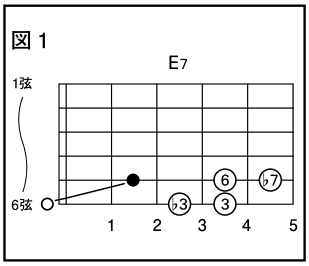
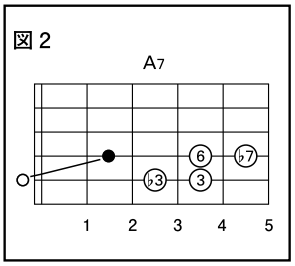



図２




ex-4　CD Track 03　00:00~00:16

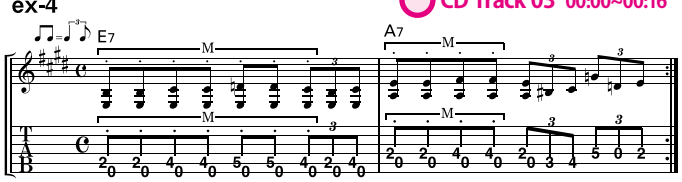



図１　図２

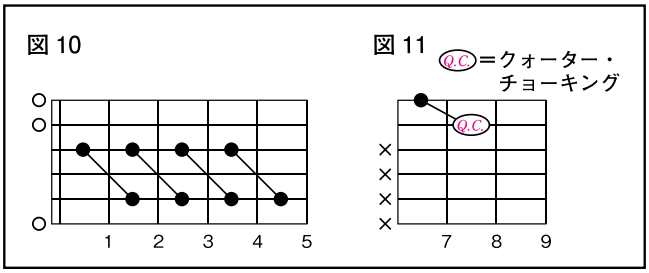
# ■さらなる本格派へ!

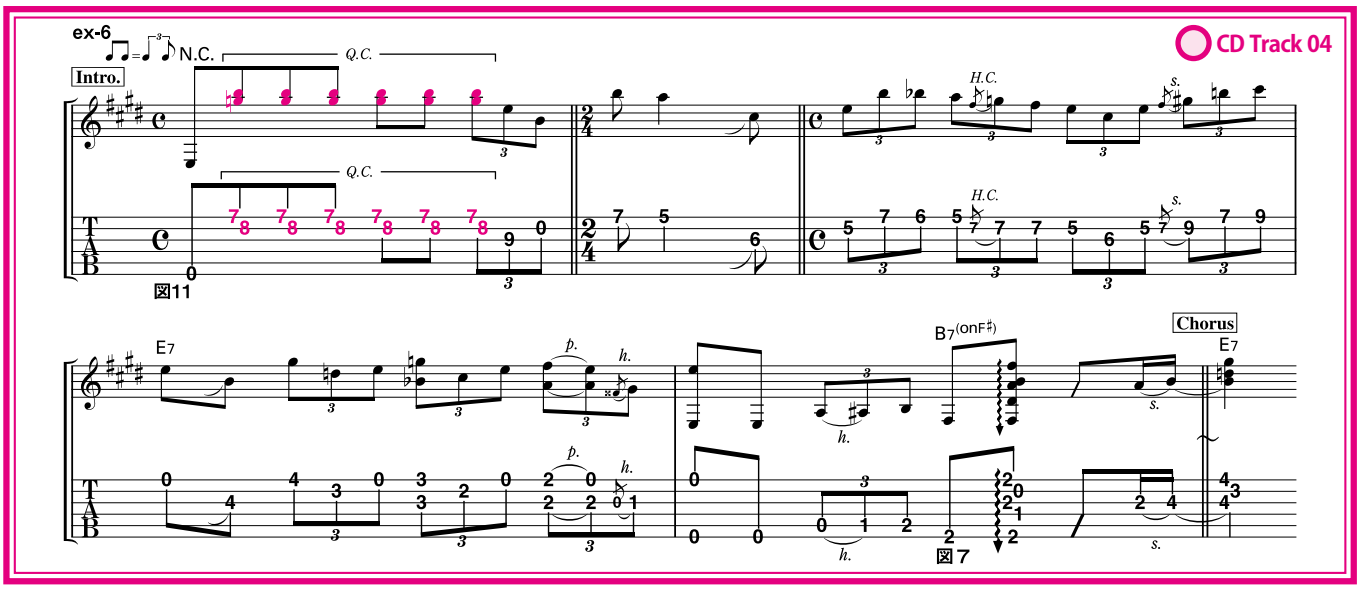
ここに用意したのは、さらなる本格派ブルース・ギタリストにバージョン・アップするための
こだわりのバッキング・パーツ&プレイ・アプローチ。
さあ、これらのコアなネタ（?笑）も覚えてブルース・マスターの道へGO！

## ●その① ：シカゴ・スタイルを象徴する必須イントロ

14～15ページのバッキング例で用いた4小節イントロは、導入シーンをリズミカルに演出していくシカゴ・ブルースの定番品。6度音程のダブル・ストップ（図10）を軸に開放弦を絡めながら進行していく同様のフレーズ展開は、ロバート・ジョンソンからシカゴ勢まで脈々と受け継がれる伝承リックのひとつ。後半に配置した10度音程のダブル・ストップは、そのロバジョン直系のブルース・レジェンドとして知られる、ロバート・ジュニア・ロックウッドの愛用パーツです。

それと肩を並べるマスト・リックとして有名な一節が、ジミー・ロジャーズの「ザッツ・オールライト」に代表される、ex-6の4小節イントロ。1＆2弦の複音を（2弦だけ）クォーター・チョーキングでしゃくり上げて粘り感を演出する、まさに正調シカゴ・ブルース（?）のイメージに直結する逸品です（図11：譜例の冒頭に半端な拍数が含まれていますが、このまま常套句としてまるごと覚えて使ってください！笑）。ちなみに「スウィート・ホーム・シカゴ」のテンポを少し落とすだけで、そのまま「ザッツ・オールライト」になっちゃいますよ～☆

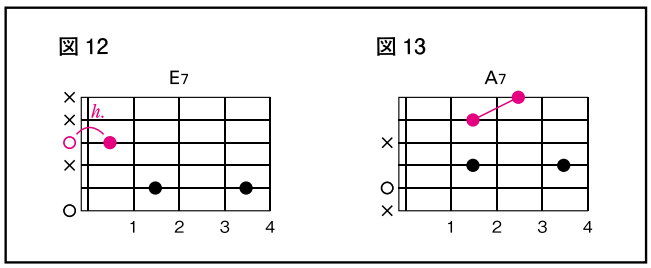



## ●その② ：高音弦を絡めるウォーキング・ベース

ウォーキング・ベースの本格バリエーションとしてぜひ覚えておきたいのが、ボトムの動きに高音弦側の音も絡める“一人二役”的なバッキング・アプローチ。ex-7＆8にあげたのがその代表的なパターンです（図12＆13）。E7コードに対応した前者、A7コードに対応した後者、ともにブルース・バッキングの常套句として認知されているお約束パターンです。

“サム・ピック”を用いるピッキング・スタイル、あるいは“生指”のフィンガーピッキングで弾くのに持って来いのコンビネー



## ■ SOLO PLAY：シカゴ・ブルースの常套フレーズ

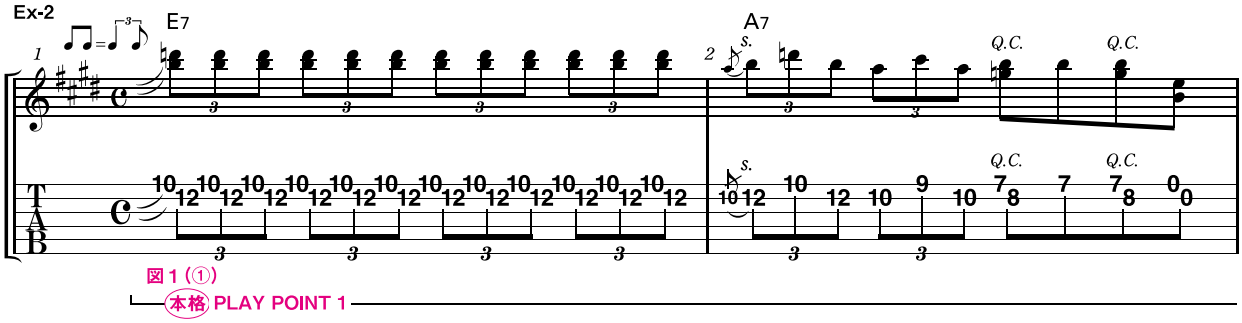
CD Track 07

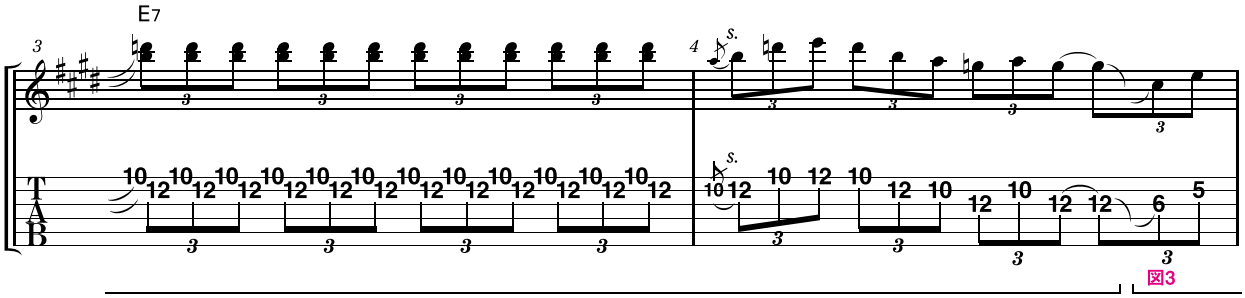
次はシカゴ・スタイルの本格ソロ・プレイに挑戦しましょう！先に紹介した「スウィート・ホーム・シカゴ」風のミディアム・シャッフルに乗って、これまたシカゴ・ブルースのイメージに直結する常套フレーズを展開していきます。

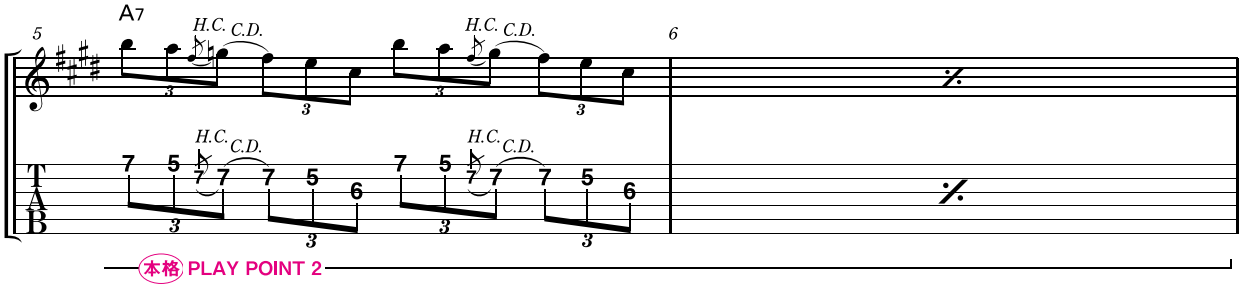
マジック・サム版の同曲をイメージしたこのEx- 2は、アドリブ・ソロというよりは、ほぼ全編が決めフレーズとも言えるマスト・リックの連続です。それだけに、この定型ソロを弾くことがそのまま本格シカゴ・ブルースの真髄を体感することにも繋がるはず！　まるごと覚えてブルース演奏力を深めてください☆

※補記した図の番号については次ページ以降を参照してください

Ex-2



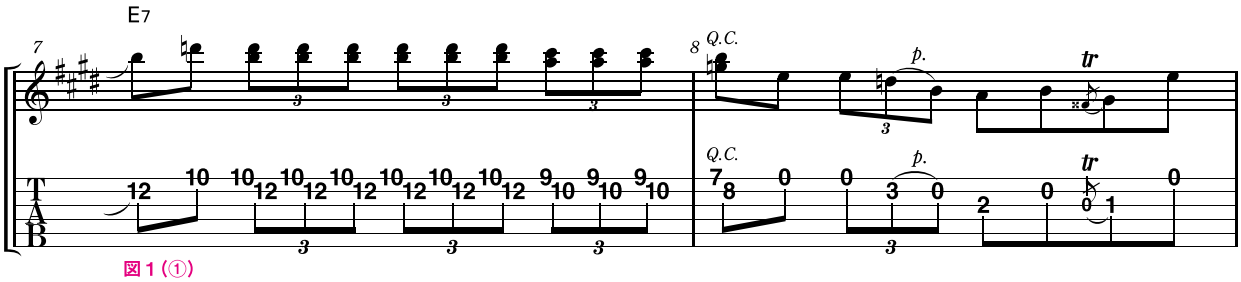
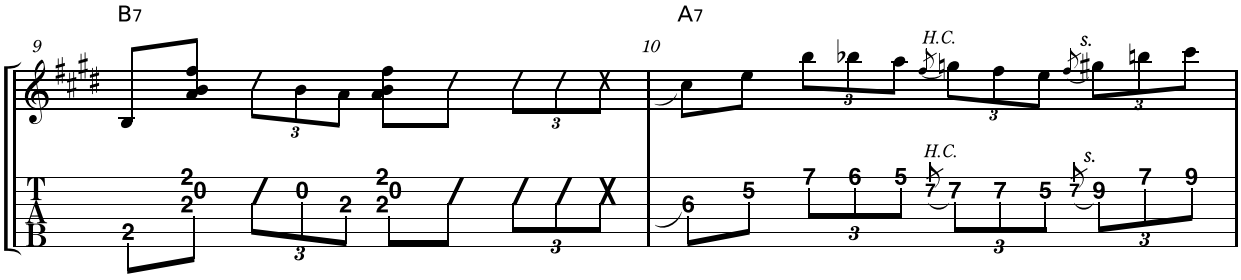
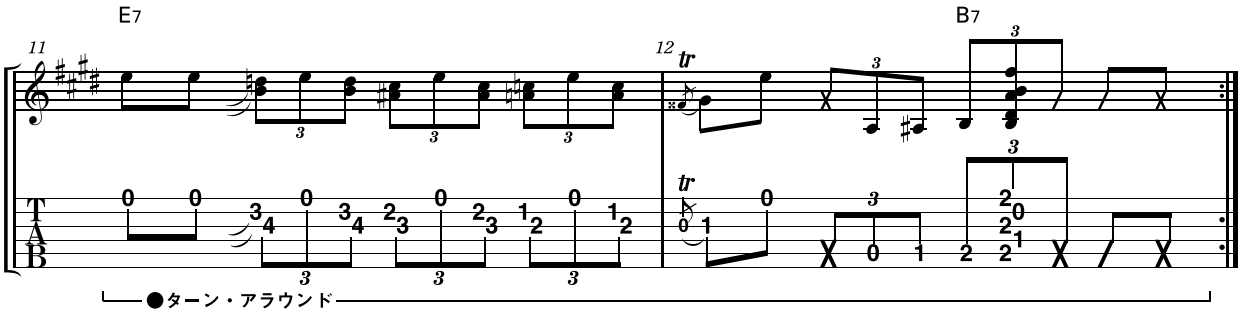



図1（①）

本格 PLAY POINT 3




●ターン・アラウンド

## 本格　PLAY POINT 1：ダブル・ストップの3連がぶり寄り

本ソロの目玉は、１＆２弦上のダブル・ストップを豪快に響かせる複音リック。図１の①側に書き出した２音ブロックを順に移動させながらアクティヴに進行させていきます（14～15ページで紹介したバッキング譜例の、コール＆レスポンスの場面に配置したのもこの複音フレーズでした）。まさにシカゴ・ブルースを象徴する黄金の一節と言えるでしょう。

この導入場面で変化をつけるなら、ex- 1のようなフレーズ・アプローチもお薦め。１弦開放＆２弦５fの異弦同音を重ねて骨太に鳴らしながら、図１の複音リックへと繋げていくダイナミックなソロ展開です。さらにソロの切り口を拡げるなら、7thフィールの効いた３音フォーム（図２）をリズミカルに配置していくex- 2も使ってみてください。キャッチーに盛り上がること請け合いですよ（笑）。ちなみに同様の３音コードの連打もマジック・サムの愛用品でした。

図１

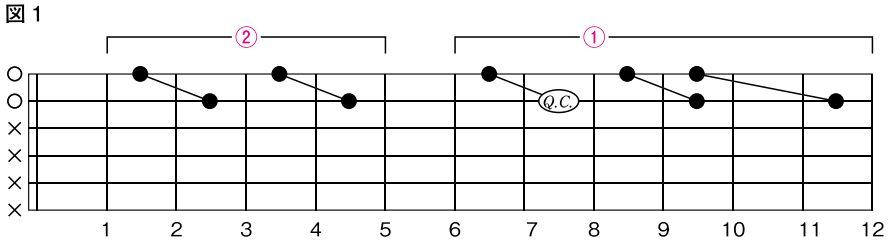
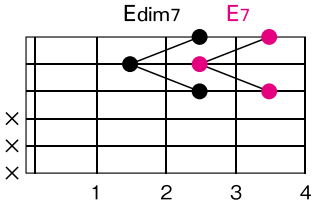
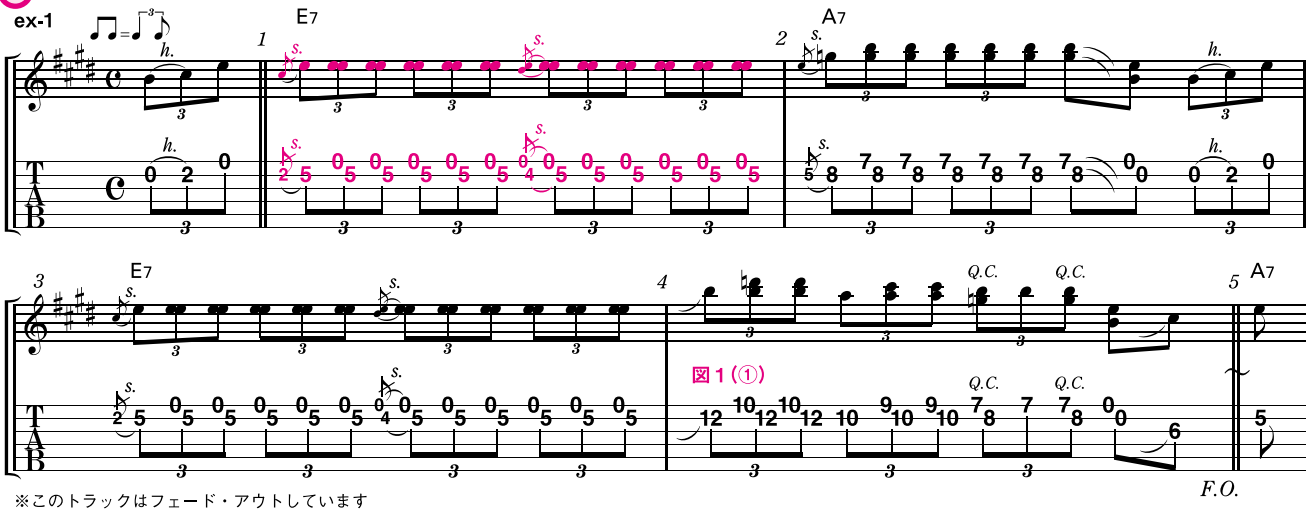



図２




CD Track 08 00:00~00:14

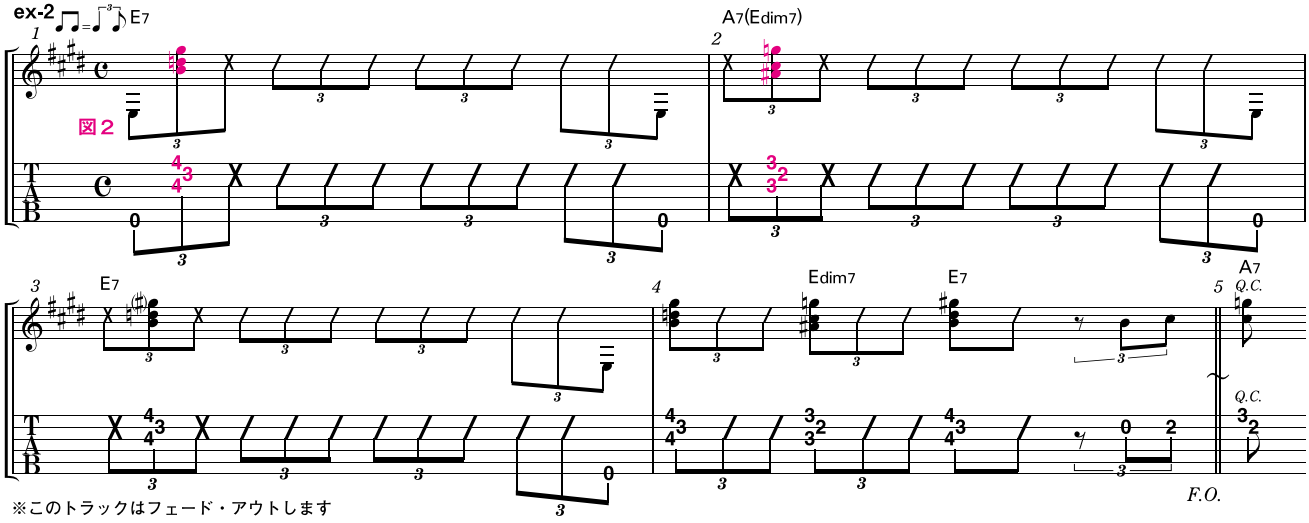
ex-1




※このトラックはフェード・アウトしています

CD Track 08 00:20~00:33

ex-2




※このトラックはフェード・アウトします

# ♪大人はこれを聴け！ 本格ブルース・ギターの会得に役立つ CD ガイド

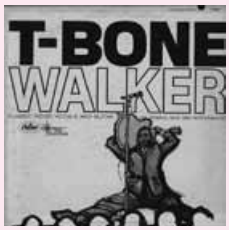
## ■本格ジャンプ・ブルースの魅力と醍醐味が味わえる推薦盤

ジャンプ＆スウィング系ブルース入門としてまず聴いてほしい定番は、03 章でも課題曲として設定した「エヴリデイ・アイ・ハヴ・ザ・ブルース」。B.B. キングのイメージに直結する代名詞ともなり、B.B. も何度か再録している曲ですが、やはり極めつけは 1960 年代のライヴ録音でしょう。その決定盤は問答無用の大傑作『ライヴ・アット・ザ・リーガル』（3 & 60 ページ参照）ですが、ここではそれと並ぶ名ライヴ盤（①）をあげておきます。猛スピードで疾走する専属バンドを従えて、華麗なる B.B. キング節が躍動する！……この強力なスウィング感はジャンプ・ブルースならではの醍醐味（ただ、B.B. も初期の録音ではもっとゆったりしたテンポ＆グルーヴで弾いています。ぜひその時期も聴いてみてください。3ページ参照）。

②は“モダン・ブルース・ギターの父”ことT. ボーン・ウォーカーの代表作。なにしろ、この中には「T. ボーン・ジャンプス・アゲイン」と「T. ボーン・シャッフル」の2曲の名ジャンプ・ナンバーが収録されていますから、これも入門者は外せませんね（笑）。

ジャンプ・スタイルと言えば、クラレンス“ゲイトマウス”ブラウンの痛快なパフォーマンスも必聴。看板ナンバー「オーキー・ドーキー・ストンプ」は、初期の録音をまとめた代表作③にその初演が記録されています。

①：B.B.King
『Live In Cook County Jail』




②：T.Bone Walker
『Classic Indigo Vocals and Guitar/
His Original 1945-1950 Performances
（邦題：モダン・ブルース・ギターの父）』

③：Clarence “Gatemouth” Brown
『The Original Peacock Recordings』

## ■本格スロー・ブルース（style1）の魅力と醍醐味が味わえる推薦盤

3大キングの作品からスロー・ブルースの必聴サンプルを以下にピック・アップしました。

④は、B.B. キングの看板スロー・ブルース「スウィート・シックスティーン」を含む名ライヴ盤。「イッツ・マイ・オウン・フォルト」や「ウォリー・ウォーリー・ウォーリー」なども収録され、ショー・アップされた音像の中で B.B. キング印の華麗な節回しを堪能できます。さらに「スウィート・リトル・エンジェル」「スリー・オクロック・ブルース」など、必須スロー・ナンバーが目白押し！

アルバート・キングで選ぶなら、何と言っても⑤収録の「ブルース・パワー」が極めつけ。落差の大きいワイド・ベンドを駆使して重量感たっぷりに弾き倒す、濃厚なアルバート節をたっぷり楽しめます。

フレディ・キングなら、エリック・クラプトンのカバー版でもお馴染みの「ハヴ・ユー・エヴァー・ラヴド・ア・ウーマン」が大看板。⑥のスタジオ録音にもフレディ・キング印の力感溢れるパフォーマンスが収録されています。

ここで3大キング以外の定番スロー・ブルース曲もざっと見渡しておくと、ニューオリンズの雄＝ギター・スリムの「ザ・シングス・ザット・アイ・ユースト・トゥ・ドゥ」、フェントン・ロビンソンで有名な「サムバディ・ローン・ミー・ア・ダイム」、そして多くのブルースマンが演奏する大スタンダード「ファイヴ・ロング・イヤーズ」や「ゴーイン・ダウン・スロウ」「スカイ・イズ・クライング」などが必須曲。

ぜひ、チェックしてみてください☆

④：B.B.King
『Live at The Regal』

⑤：Albert King
『Live Wire/Blues Power』

⑥：Freddy King
『Blues Guitar Hero：
The Influential Early Sessions』

## あとがき

本書をひも解いてくださった大人のギタリストの皆さん、『39歳からの本格ブルース・ギター』いかがだったでしょうか？　読者のブルース・プレイがより円熟味を増し、さらなる充実したギター・ライフを送る……この書がその一助になれば筆者としてこんなに嬉しいことはありません。

ちなみに本書はいちおう“39才からの～”と銘打ってはいますが、その対象のベテラン・プレイヤーはもちろん、ブルースに興味を持ち始めた若手ギタリストにも、すべてのブルース好きのギタリストにきっとご満足いただける指南書となったと、多少なりとも自負しております。

さて、ここまで読み進めて全コンテンツをクリアされた読者は、全10タイプのスタンダード曲を実践的にプレイする演奏マナーを身につけられて、より本格派のブルース・ギタリストとしての腕前と感覚が一皮も二皮も剥けてきたのではないかと思います。

ここから先は、そのスキル＆センス・アップを土台にジャム・セッションなどにもどんどん参加して、読者のブルース・パワーをさらにピカピカに磨き上げていってください！　ブルースの奥深さと機微こだわりまくって探求するその先に、さらなるディープなブルースの世界が見えてくるはずです（笑）。

では、またお会いしましょう。

# 39歳からの本格ブルース・ギター

リットーミュージック・ムック
2015 年1月 22 日　第1版1刷発行
定価（本体 1,900 円＋税）
ISBN978-4-8456-2553-6

●著者・演奏
安東 滋

●発行所
株式会社リットーミュージック
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町一丁目 105 番地

［ホームページ］ http://www.rittor-music.co.jp/
［編集部］ TEL：03-6837-4707 / FAX：03-6837-4716
［お客様窓口］
商品に関するお問い合わせ
リットーミュージックカスタマーセンター
TEL：03-6837-5017 ／ FAX：03-6837-5023
E-MAIL：info @ rittor-music.co.jp

[ 書店・取次様窓口 ]
出版営業部
TEL：03-6837-5013 / FAX：03-6837-5024

●発行人／編集人
古森優
●編集長
三上裕介
●編集
杉坂 功太
●デザイン
村藤治
● DTP
杉山 勝彦、平井 朋宏（LOVIN'Graphic）
●撮影
大山ケンジ／山下陽子（2 ～ 8 ページ）
●マスタリング
角 智行

©2015 SHIGERU ANDO

※本誌記事／写真／譜面などの無断転載は固くお断りします。

RITTOR MUSIC MOOK
JANUARY 2015
PRINTED IN JAPAN

●印刷／製本
図書印刷株式会社

39歳からの本格ブルース・ギター

円熟の演奏力が身につく
大人のギター教本

01章 ―― 本格シカゴ・ブルース
02章 ―― 本格アーバン・ブルース
03章 ―― 本格ジャンプ・ブルース
04章 ―― 本格スロー・ブルース(style 1)
05章 ―― 本格スロー・ブルース(style 2)
06章 ―― 本格マイナー・ブルース
07章 ―― 本格8小節ブルース(style 1)
08章 ―― 本格8小節ブルース(style 2)
09章 ―― 本格ファンキー＆ロッキン・ブルース
10章 ―― 本格2ビート・ブルース


Guitar magazine

39歳からの本格ブルース・ギター


発行所　株式会社リットーミュージック　〒101-0051 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地　2015年1月22日発行

リットーミュージック

9784845616220

1929473020003

ISBN978-4-8456-2534-5

C9473 ￥1900E

定価 本体1,900円＋税　雑誌69778-82